

12月15日正午必着

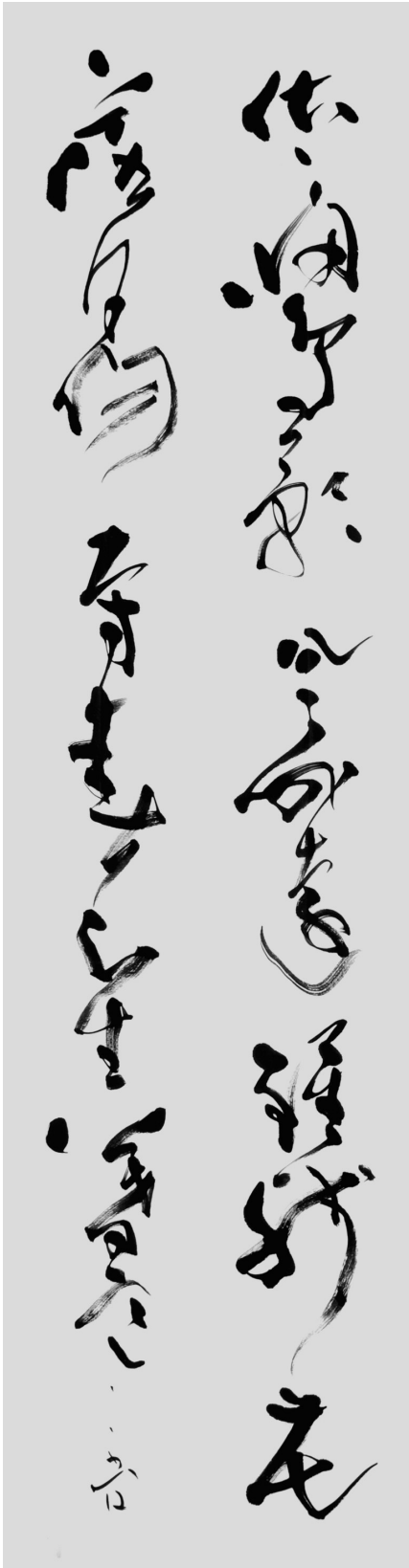
明石春浦先生書



得魚忘筌(莊子)

魚を得ると、それに用いた筌のことを忘れてしまう。

三浦士岳先生書



依依歸鳥影 風外遠鐘殘 花落夕陽寺 春山生暮寒(長三洲)



明石幸子書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

冷硯欲書先自凍、孤燈何事獨成花（軾 蘇）

書きものをしようとしたら、硯の水は早くも凍っていた。燈火は何故かひとり花を結んだように美しい。

掃雪敲冰

雪を掃き、氷を敲く

雪を除き、氷を割る。

寒色亂鴉飛笠澤 夕陽衰柳並旗亭

寒色乱鴉飛笠澤 夕陽衰柳旗亭に並ぶ

寒そうな景色の中、鴉が太湖の方へと飛んでゆく。冬の柳と居酒屋とが並んで夕日に照らされている。

登汴城角樓

（張文光）

汴城の角楼に登る 張文光

落日下層城

落日層城に下り 蒼然として遠樹平らかなり

亂雲連嶽碧

乱雲岳に連なって碧に 野火江を隔てて明らかなり

狐兔盤深窟

狐兔深窟に盤り 蒹葭旧京に冷ややかなり

中原形勝地

中原形勝の地 画角辺声起こる

山裾に白くまがりて 流れたる 遠き谷見え 冬の山澄めり

（若山 牧水）

半紙部規定課題A

12月15日正午必着

安 今
郡 日
新

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

12月15日正午必着

行書

今日新
安郡

今日新
安郡

隸書

今日新
安郡

今日新
安郡

明石春浦先生書

草書

行草書

おくぶかい住居、山中のつたかずらをいとおしむそのころ 高雅に隠遁されるが、

その徳によって綱紀秩序は正しく行われる

秋の鷹は下りたつて、鳥どもは飛び散じ 春の草は生い茂り、人は閑静にすごす

山気をかきわけて田舎の寺に帰り 官印をしまつて山中の城を出る

今やここ新安郡は 君ゆえに水がいつそう清らかなことだ

題三元録事所居 劉長卿

幽居蘿薜情

高臥紀綱行

鳥散秋鷹下

人閑春草生

冒嵐歸野寺

收印出山城

今日新安郡

因君水更清

元録事が所居に題す 劉長卿

劉長卿

幽居して 蘿薜の情あり

高臥して 紀綱行わる

鳥散じて 秋鷹下り

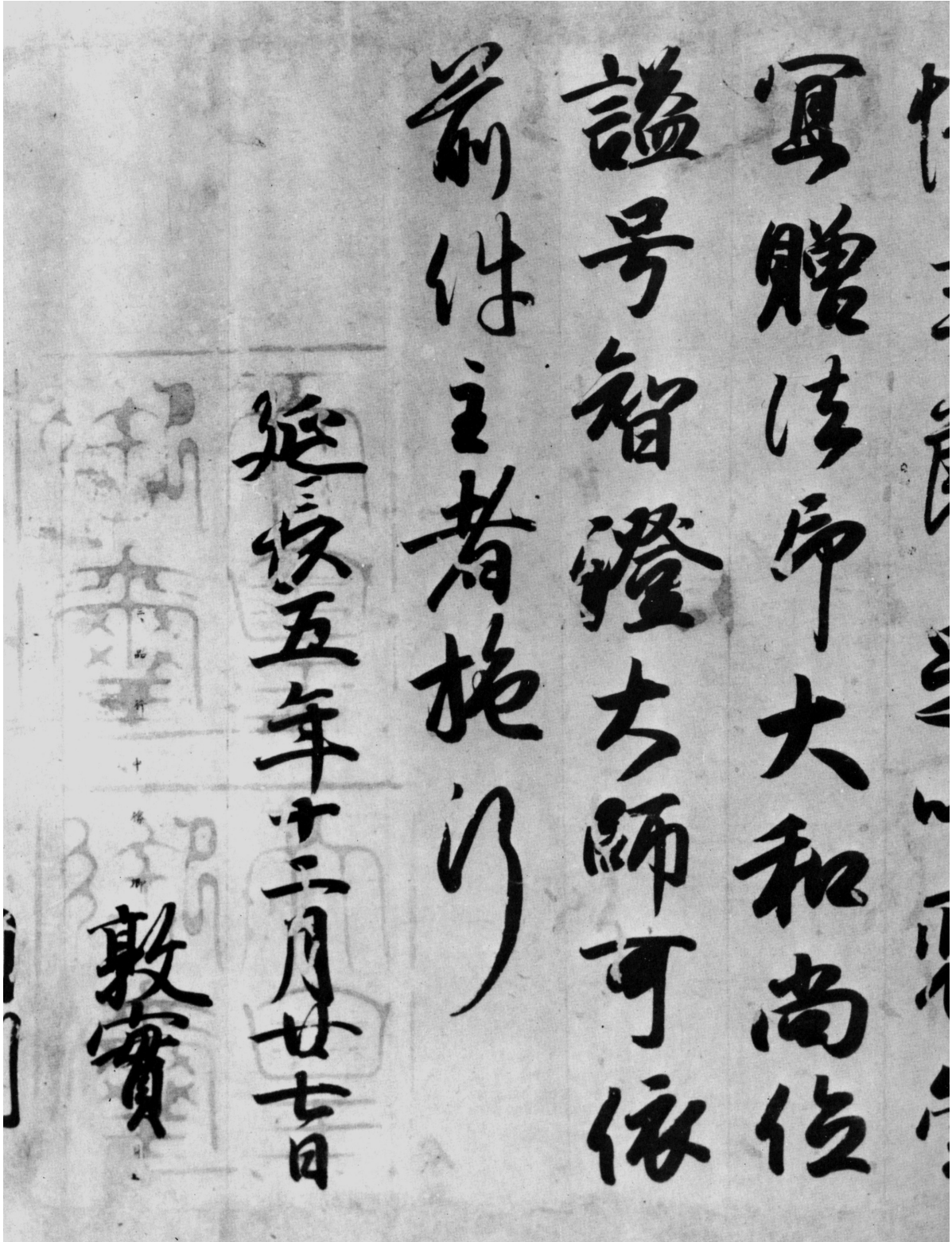
人閑にして 春草生ず

嵐を冒して 野寺に帰り

印を収めて 山城を出ず

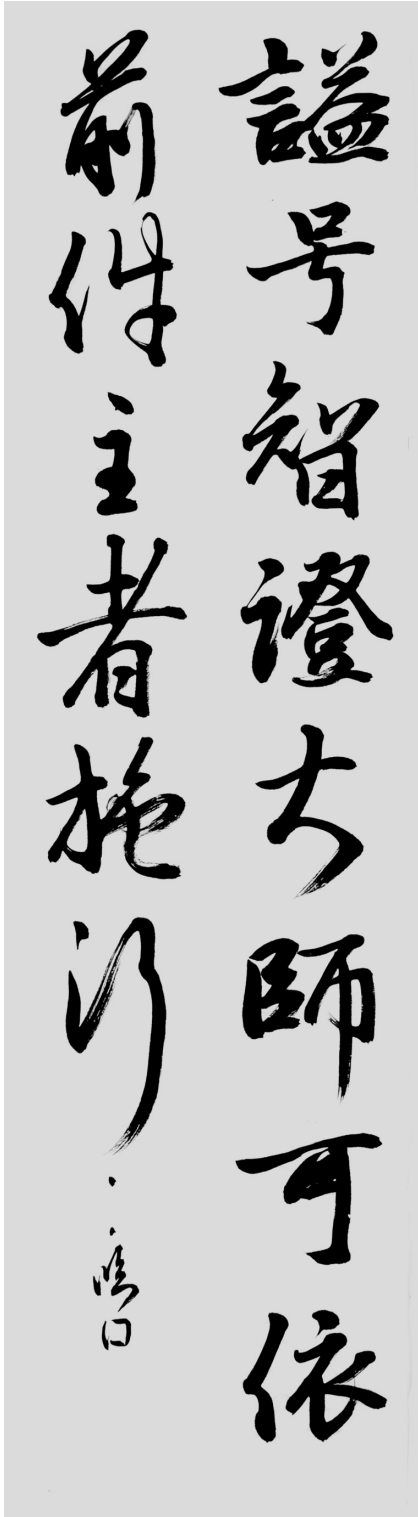
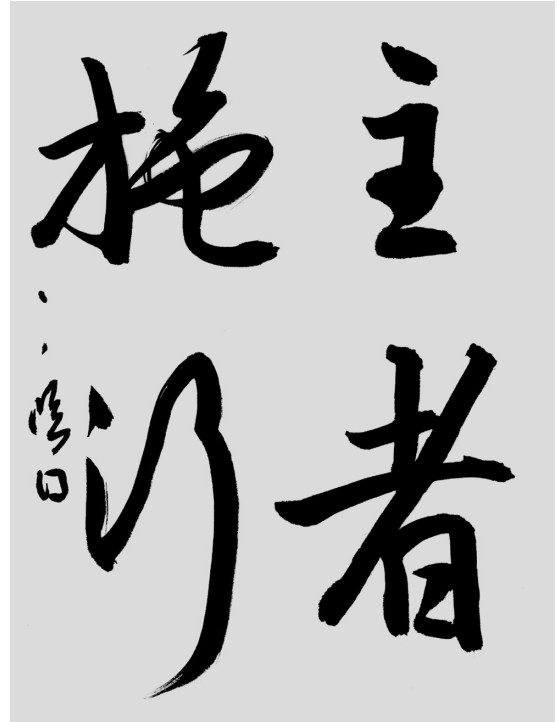
今日 新安郡

君に因つて 水更に清し



宣贈法印 大和尚位謚號智證大師。可依前件主者施行。延長五年十二月廿七日 三品行中務卿 敦實

12月15日正午必着



平安 小野道風・智證大師謚號勅書

小野道風（みちかぜとも呼ばれる）は生没年に諸説あるが、寛平八年（八九六年）現在の愛知県春日井市に生まれ、康保三年（九六六年）に没したとされている。

平安時代の貴族で、小野篁の孫にあたる。二十七歳の時その能書をかかれ蔵人所に召し出され、内蔵頭までのぼり正四位下に叙せられた。花札の絵柄になっている人物としても知られ、「柳に蛙」の逸話は有名である。

藤原佐理・藤原行成と共に日本の三蹟と呼ばれ、三筆（空海・嵯峨天皇・橘逸勢）の唐様の書風から脱して和様書道の基礎を作り上げたと言われている。

道風の真蹟として確かなものとされているのは屏風土代・玉泉帖・三體白楽天詩巻などであるが、それらによって漢字の和様が完成したことが窺えると言われている。

この智證大師謚號勅書もそのひとつで、道風三十四歳の作。和様の典型であり、穏やかに整った字形と独特の粘りのある線質のなかに豊富な弾力性のある文字が表出されている。

（春濤）

謚号智證大師とを（贈るべし。）前件に依り主者施行す可し。

12月15日正午必着

教育部毛筆



りょう
良

かん
寛

中学一年

雨宮春聲先生書



かん
寒

つばき
椿

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



さっ
作

か
家

小学五年

藤井良泰先生書



じょ
除

や
夜

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

12月15日正午必着



細谷春誠先生書

て
手

しな
品

小学三年



榎戸春龍先生書

はく
白

ちょう
鳥

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ゆ め 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

お 寺 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

まする子供らの声	つめたい冬空にこだ
----------	-----------

小学五年

近づく冬を感じさせ	るような山の景色
-----------	----------

小学六年

便りに冬の訪れを知る	北国から届いた初雪の
------------	------------

中学

どこか遠くへ行きたい	知らない街を歩いてみたい
------------	--------------

一般(級位)

ひとりの冬の嬉しさをあふれな	せぬように思はずおぼえて
----------------	--------------

一般(段位)

むらさきむらさき おぼみをおぼ思はず ちか誓ひてし ひと人の命の を惜しくもあるかな (右近)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

い	き
	た
ふ	か
ゆ	ぜ
の	
あ	さ
さ	む

幼年

プ	北
ー	か
ふ	ぜ
い	が
て	
い	ピ
る	ー

小学一年

か	つ
ら	め
ふ	た
つ	い
て	雨
い	が
る	朝

小学二年

ら	冬
め	の
く	夜
ほ	空
し	に
た	
ち	き

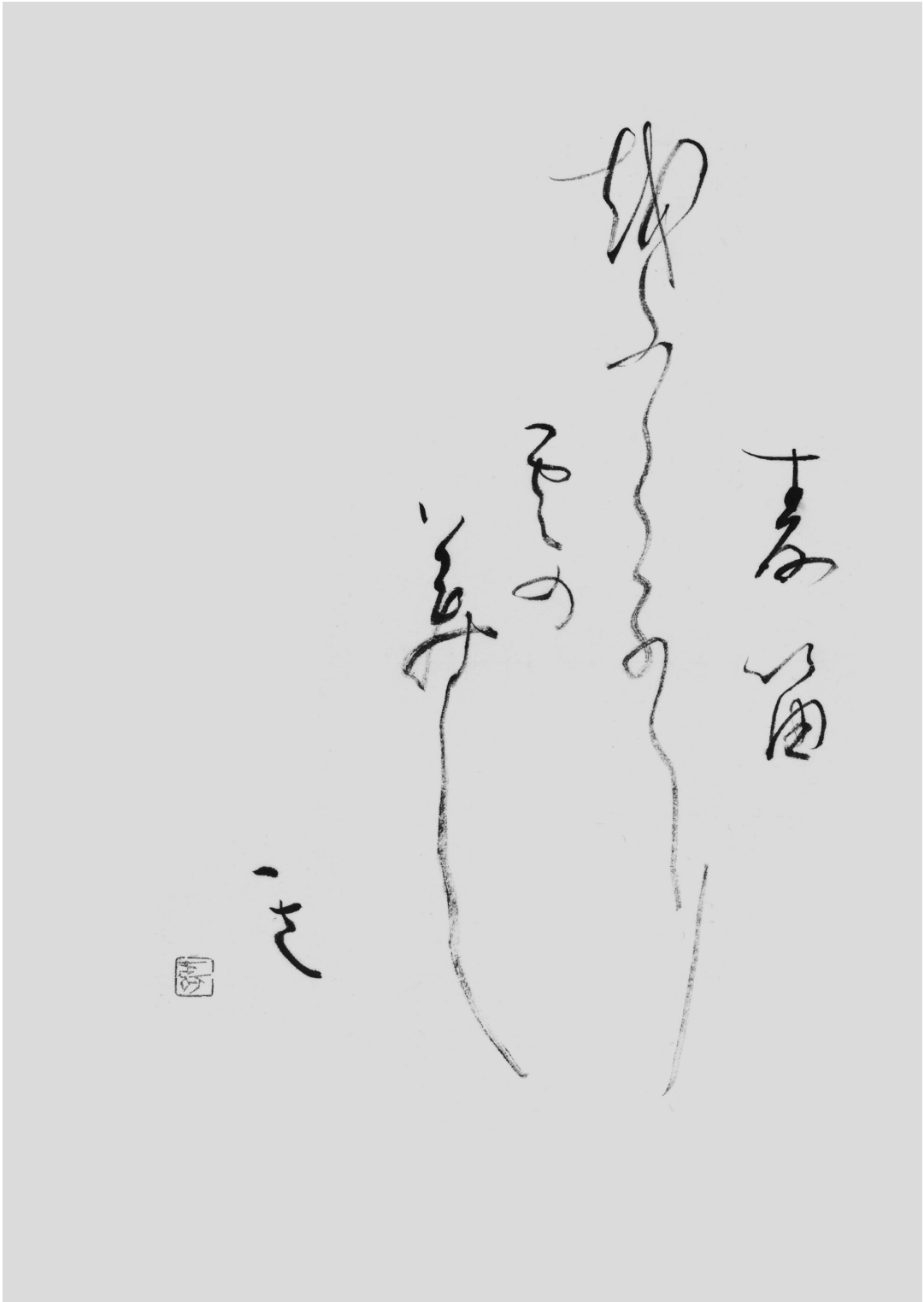
小学三年

よ	北
り	国
が	か
と	ら
と	初
い	雪
た	の
	た

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



麦笛を
越こふく子に雲の
耳みみ美しき
(原石鼎)

岩本景楓先生書